

# 緒言

現在、口腔癌に対して行われる治療法で最も根治性の高い治療法は依然として外科療法である。しかしながら口腔は様々な機能を有する部位であるため、切除の範囲によっては術後障害が生じ、QOLの著しい低下を引き起こすこともある。

それゆえに術者は原発病変切除後の組織欠損に対し、形態・機能の再建を常に念頭に置く必要がある。今回われわれは下顎歯肉癌術後に生じた嚥下障害に対し関連各科、多職種の協力のもと回復を認め、社会復帰することができた症例を経験したのでその概要について報告する。